

保坂 由希子

設計演習 I

第1課題

地域での文化活動の拠点となる地区センター

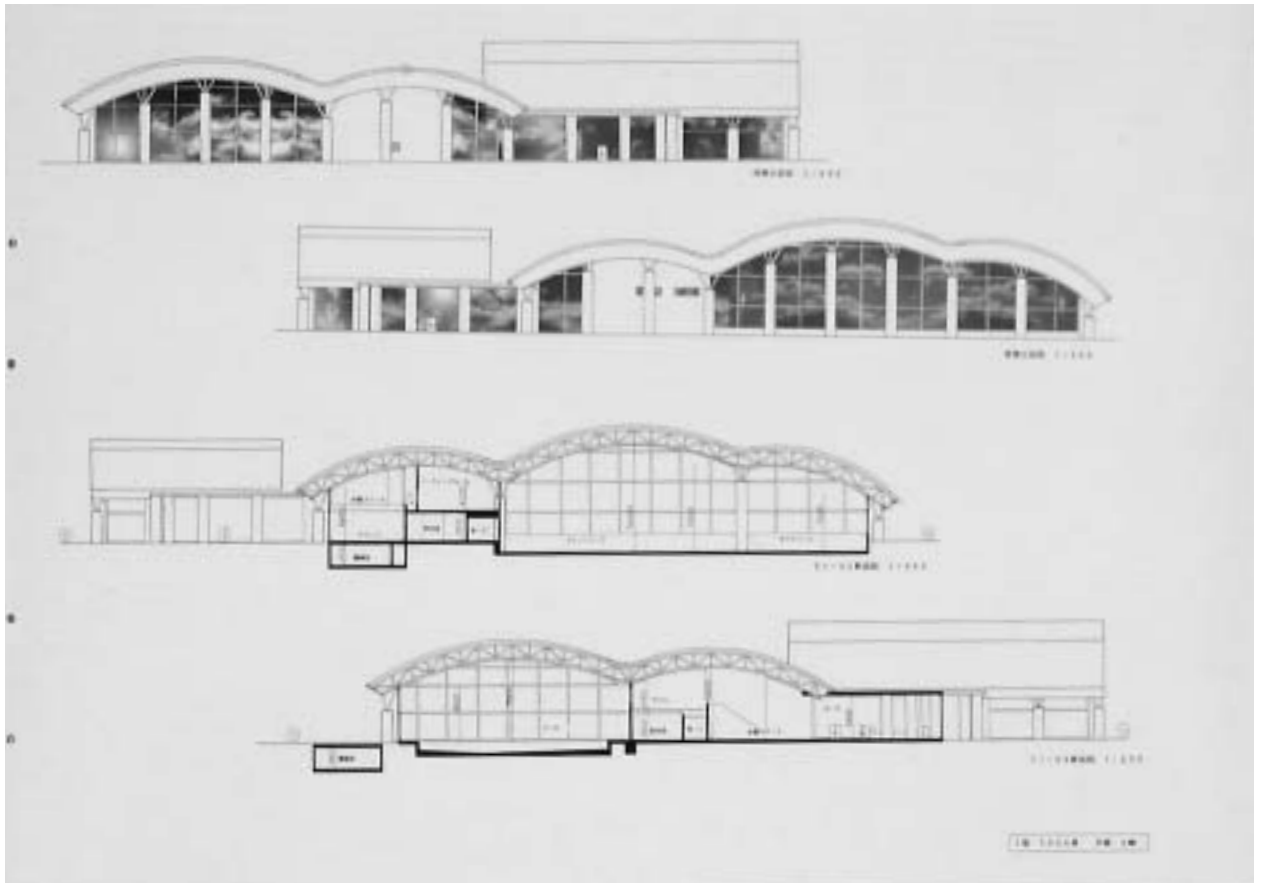
第2課題

地域スポーツセンター

3年1組

担当=

若色 峰郎



伊藤 大輔



第1課題
保坂 由紀子

湘南という海岸から数分の場所
にこの地域センターはあり、小
学校、中学校、養護学校と住宅
に囲まれた潮風を感じることで
ある場所である。これらの状
況から建物は海から見て東西に
建て、風の通りを良くすると共
に広場の一部を一階まで下げる

ことにより内部にも風や自然光
が入るようにした。また、この
広場が通道の役割も果たすこ
とによって利用率を高め、広い
年代層にわたるコミュニケーシ
ョンの場となるよう計画した。

指導=若色 峰郎

この課題に着手するにあつ
て、各自が敷地を選定すること
からはじめた。

地域に密着した施設を考えるに
は、まず、その地域を充分に理
解する必要があり、その上で、
具体的な敷地を計画地を選定す
ることが重要だからである。

保坂案は藤沢市辻堂団地の一面
を選定しているが、集合住宅群
の近傍に位置づけたことは、施

設の利用率を上げる上で1つの
提案と考えられる。敷地は団地
内の小高い丘の中に位置し、団
地の人々の通り抜けの道を挟み
両側に建物を配した仕掛けは興
味深い。それはこの中通路を通
る地域の人々が建物内で行われ
ている様々なアクティビティを
見ることができ、施設内への誘
い込みの効果が期待できるから
である。2棟の向い合った形の
バランスもよく、図面や模型の
表現も良好である。

第2課題

伊藤 大輔

計画敷地は、周辺に小学校、病
院、駅などがあり、地域の中心

となっている場所に設定しまし
た。施設内容は、地域に密着し
たスポーツセンターということ
で、まず計画する自分の町につ
いて調べ、盛んなスポーツや町
の目標に沿って考えました。平
面は、幅広い年齢層の利用のた
め分かりやすくしています。ま
た、ガラスを多く使用したり、
屋根を流線形にしてそれぞれの
空間をつなげるように心掛けま
した。

指導=若色 峰郎

地域施設はその立地が極めて重
要である。この課題では各自が
敷地を選定することからはじめ
た。伊藤案がJR東戸塚駅にほ
ど近い場所を計画地として選定

したのは、この土地を熟知して
いることと、地域の人々の流れ
を意識した計画を考えたからで
ある。この案は、球技系の体育
棟とプール棟の2棟からなり、
両者のウィングの交点に入口ホ
ールを設けた明快な平面構成と
なっている。スポーツの空間は、
その性格上、スパンの大きい建
築となるため架構が形態に大き
く関わってくるのだが、この案
は、その架構計画の上からも、
充分評価できる作品であり、図
面や模型による表現も好まし
い。ただ、2棟の交差した部分
の入口廻りの空間は、スポーツ
空間としての開放性(視覚上の)
にやや欠ける点が気になるこ
ろである。